

第三回 市民公開講座

女性特有のがん検診率向上をめざして

守ってあげたいいのちを懸けて

乳がん月間である10月に、乳がんのちプロジェクト実行委員会（実行委員長 梅村定司医師）の取組みの一つとして市民公開講座を開催しました。今回は、乳がんだけにとどまらず、子宮頸がんも含めた女性特有のがん検診啓発活動として盛り上げたいと考え、講演会のあとには世界遺産 慈尊院で「ろうそく&ピンクライトアップ点灯式」も開催しました。

国が掲げるがん対策推進基本計画のがん登録法制化作業チームの一員でもある自由民主党 女性局長 参議院議員 三原じゅん子議員を招待。ご自身も2008年に子宮頸がんを患い、子宮を摘出した経験を持つ三原議員。TBS「3年B組金八先生」など数多くのテレビ作品に出演するなど、現在は参議院議員として国会の場で活躍され、子宮頸がんワクチン接種の無料化、がん患者への就労支援や医療従事者の育成など医療制度改革を主張し、がん撲滅活動にも積極的に参加されています。



医療の現場で、患者さんと向き合いながら、
いつも「心に寄り添った医療」について考えている。



池島 美和医師

医療法人久和会 奥村マタニティクリニック
「子宮頸がんとヒトパピローマウイルス」

医療法人久和会奥村マタニティ
クリニック池島美和医師は、

子宮頸がんは
予防できる

橋本市産業文化会館アザレア
には、おかげさまで予想をはる
かに上回る300名もの来場者
にお越しいただきました。

10月18日(土)、乳がんの
ことを、そして子宮頸がんのこ
とを身近に感じてもらいたい
と、女性特有のがんについて開
催した第3回市民公開講座。



梅村 定司医師

医療法人南労会 紀和ブレスト(乳腺)センター

「遺伝性乳がんと予防～アンジーの選択は正しかったのか～」

医療法人南労会紀和ブレスト
(乳腺) センター梅村定司医師
は、乳がんはどのような確率で
遺伝するかや、がん予防の効果
が高いとされるデザイナーフー
ズ・ピラミッドから食事面での
予防などにも触れ、最後は予防
と検診の重要性を強調されまし
た。

子宮頸がんは、予防ができる
がんであり、正しい知識を身に
つけて、大切な自分の体を守っ
てほしいことや、ヒトパピロー
マウイルスなどについて話さ
れ、がん検診への呼びかけをさ
れました。



基調講演 三原 じゅん子議員

自由民主党 女性局長 参議院議員
「守ってあげたい いのちを懸けて」

参議院議員三原じゅん子議員は、冒
頭で日本の検診率が低いことに触れら
れました。また、ご自身が子宮頸がん
に罹患したときに感じた不安な気持ち
や焦燥感について、「(がんの) 情報が
少ない」「がん友(がんに罹患した患者
たち)に支えられた」などと振り返ら
れました。

命をかけて

取り組んでいきたい

そして、参議院議員というご自身の
立場から、改めてがん検診の大切さや
がん患者を取り巻く就労支援の問題、
また、子どもの頃からのがん教育の必
要性を訴えていきたいと締めくくられ
ました。

乳がんの正しい知識と早期発見・診断・治療の大切さ、 乳がんで亡くなったあなたを忘れないために。

紀和病院乳がん患者会「ひだまり」の皆さんが約350個のキャンドルグラスでピンクリボンを作り、そのグラスが参拝客を幻想的な雰囲気で包み込むなか、乳がん犠牲者追悼法要と、乳がんの正しい知識をより理解してもらおうと、多宝塔が3基のライトでピンク色に染まりました。

同日、17時30分。
世界遺産 女人高野別格本山 慈尊院の参道を灯するうそくに導かれながら、点灯式が始まりました。

乳がんは治る病気



乳がんいのちプロジェクト実行委員長 梅村 定司医師

ピンクの光に込めた 3つの願い

- 一つ 早期発見のために、一人ひとりが検診を受けてほしい。
- 二つ 今、乳がんと闘っているあなたへ勇気を贈りたい。
- 三つ 乳がんで亡くなったあなたを忘れないために。

この日一日限りの点灯というこもあり、たくさんの方が多宝塔やリボンのうそくをカメラに収めたり、様々な思いを込めて手を合わせる参拝者の姿が印象的でした。

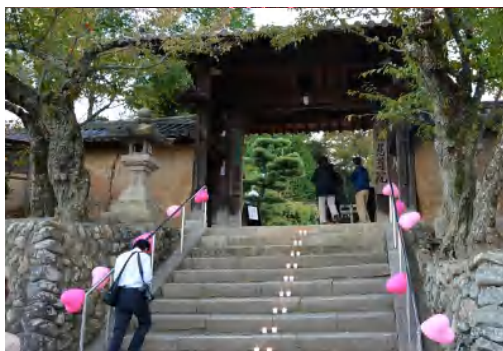
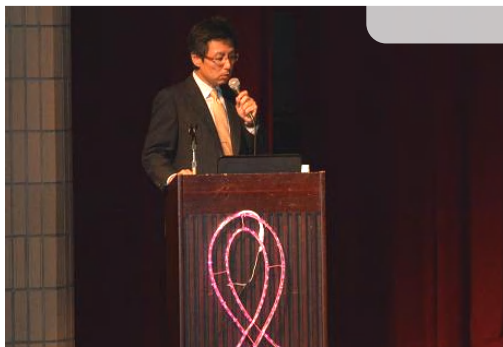
乳がんをみんなに知ってもらい、検診がもっと身近なものになること、乳がんと闘っている患者さんへ勇気を贈り、そして乳がんで亡くなった方を忘れないために、この3つの願いをピンクの光に込めて、たくさんの人に届きますよう願っています。



世界遺産 女人高野別格本山 慈尊院 多宝塔



乳がんのちプロジェクト



THE YOMIURI SHIMBUN

読賣新聞

2014年(平成26年)
10月26日 曜日

「女性のがん」予防考える

橋本で市民講座 三原議員ら講演

女性のがんの予防法などについて考える市民公開講座「女性特有のがん(乳がん・子宮頸がん) 検診率向上をめざして(読売新聞和歌山支局など後援)が橋本市高野町町の市産業文化会館で開かれ、患者やその家族ら約300人が医療関係者らの講演に聴き入った。紀和病院の「紀和プレス(乳腺)センター」などでつくる実行委員会が企画した。

18日に開かれた公開講座では、奥村マタニティクリニックの池島美和医師が「子宮頸がんを引き起こすウイルスなどについて解説」「日本の検診の受診率は先進国ではかなり低い。がんの早



自身の闘病生活などについて語る三原議員(橋本市山)

この後、三原じゅん子参院議員が基調講演を行い、自身が子宮頸がんを患った際の闘病生活を振り返りながら、「子どもに対するがん教育や、患者を支援する政策を充実させる必要がある」と強調した。

夕方からは、慈尊院(九度山町)の多宝塔を乳がん撲滅のシンボルカラーのピンク色にライトアップ。患者ら約300人は約300本のろうそくを並べて火をともし、がんで亡くなった人たちを追悼した。

18日に乳がん講座

慈尊院 多宝塔ライトアップ

橋本、九度山

「乳がんのちプロジェクト実行委員会」は18日、「守ってあげたいいのちを懸けて」をテーマに第3回市民公開講座(毎日新聞和歌山支局など後援)を橋本市と九度山町で開く。同町の世界遺産「慈尊院」では多宝塔に写真Ⅱを乳がん検診啓発のシンボルカラー、ピンク色にライトアップする。

乳がんは早期発見・治療で完治する可能性が高く、講座は定期検診の受診を呼びかける

「乳がんのちプロジェクト実行委員会」は18日、「守ってあげたいいのちを懸けて」をテーマに第3回市民公開講座(毎日新聞和歌山支局など後援)を橋本市と九度山町で開く。同町の世界遺産「慈尊院」では多宝塔に写真Ⅱを乳がん検診啓発のシンボルカラー、ピンク色にライトアップする。

乳がんは早期発見・治療で完治する可能性が高く、講座は定期検診の受診を呼びかける

「乳がんのちプロジェクト実行委員会」は18日、「守ってあげたいいのちを懸けて」をテーマに第3回市民公開講座(毎日新聞和歌山支局など後援)を橋本市と九度山町で開く。同町の世界遺産「慈尊院」では多宝塔に写真Ⅱを乳がん検診啓発のシンボルカラー、ピンク色にライトアップする。

乳がんは早期発見・治療で完治する可能性が高く、講座は定期検診の受診を呼びかける



10月16日(木)

2014年(平成26年)

発行所: 大阪府大阪市東区山崎1丁目1番1号

〒540-0001 電話: 06-6244-1101

毎日新聞大阪本社